



南之町屋台部トピックス

NO. 4
2017. 6. 25



新調やっさ制作中！「斗組・垂木」

ふとんやっさの木地制作のなかで最も手間がかかる「斗組・垂木」は、社寺建築の技術のみどころです。組み合わせる技、木の材質（木目）を見極め隙間なく取り付ける職人技を制作写真で紹介します。

☆斗組 —四手先6段—

斗組は、斗（大斗 4 個、皿斗大 4 個、皿斗小 384 個、巻斗 368 個、鬼斗 16 個）と肘木（杵肘木 136 個、通肘木 16 個、隅肘木 16 個）を組み合わせた構造。ふとん屋根部分など支え、屋台練の衝撃を緩和します。間近でみると圧巻です！！(^^)！

巻斗

隅肘木

鬼斗

皿斗小

皿斗大

肘木

大斗



☆垂木 —三軒(みのき)—

ふとん屋根の軒下に垂木があり、垂木の幅と間隔が等しい繁垂木、三段の様式を三軒（みのき）といいます。下から見上げたときの垂木の並びは芸術です(*^^*)



隅木

木負

論治垂木



論治垂木をみることで屋台の棟が社寺建築の工法の基礎通り制作しているか見分けられるそうです。論治垂木の中心部分が、隅木と木負が交わる部分に来ることが工法上正確に制作されているそうです。

新調屋台情報は、南之町屋台部HP・Facebook で発信中！ いいね！ してね。